

あなたのお店を拝見 農薬卸とモノラック

地域農業の変化への対応が 会社を成長させる

株式会社池田喜伴商店

その278

みかん等の果樹栽培が盛んな愛媛県八幡浜市でモノラックと農薬の卸を中心に堅実な経営を行う(株)池田喜伴商店(愛媛県八幡浜市北浜1丁目3番地5号 代表取締役社長 池田洋一氏)を訪ねた。

愛媛の松山空港から約1時間半、JR八幡浜駅から車で約10分のところに株式会社池田喜伴商店があります。

現在の社長、池田洋一氏は3代目にあたり、池田洋一氏の祖父である池田喜伴(よしとも)氏が大



代表取締役 池田洋一氏



(株)池田喜伴商店

正15年に創業しました。創業当時、八幡浜は四国、九州、中国方面の圃の一大集散地で、東の豊橋(愛知県)、西の八幡浜と言われる圃集散地の両横綱でした。創業者の池田喜伴氏はそこに目を付け、一念発起サラリーマンを辞め、養蚕具の販売店を開業しました。しかし、資金に余裕があつて始めた事業ではなく、銀行への借入が大きくなり、返済も滞り、寝る間

惜しんで働き、借金を10年で返済。まさに馬車馬の如く働いたそうです。しかし、「いくらで仕入れ、いくらで売って儲けはいくら」とは考えず「商人は消費者にサービスをして、その報酬をもらう」という気持ちで商売を続け信頼を得、地盤を固めていきました。

その後、喜伴氏50歳半ばで若手25歳の長男、寛治氏に社長を譲り、以来2代目の寛治氏が50年間社長として社業発展に貢献してきました。その間養蚕を営む農家が減少し、代わって柑橘を扱う農家が増加。柑橘関係の農機や農薬が販売の中心となっていました。

現在は農薬50%、農機50%の売上構成となり、小売から卸売中心に業態も変化しました。農機はみかん畑で使うモノラックやスプリングロー等がメインで、トラクター等の大型農機の扱いはほとんどありません。この点からも整備について、従業員には農業

社名の池田喜伴商店の名は祖父の名をとって、「池田よしとも商店」と読みますが、お客様からは「池田きほん商店」と呼ばれ、池田社長も子供の頃から「きほん」だと思っていたそうです。池田社長は社長就任時の登記の際に社名の読み方をお客様に親しまれている「きほん」に変更し「池田喜伴(きほん)商店」と改めました。

社長の池田洋一氏は、大学を卒業後、農機とは緑のない大手精密機器メーカーに就職し、大型機械の営業をしていました。仕事も軌道に乗り、これからという時に実家から「父が倒れたから戻ってこい」と言われ、会社を辞めて戻ってみたいという気持ちで戻りました。結果、父の下を跡を継ぐため池田喜伴商店に入社しました。

今までは大手メーカーに勤務し、実家の仕事は手伝ったこともなかった池田社長は、仕事を始めた頃、祝日に家でのおんぼりしている時、母から「何してるの、早く仕事に行きなさい」と言われ、これまで土日祝日が休みで夏と年末年始に長期休暇のあった生活から一転し、休みの少ない生活に変わりました。

農機店で仕事をしている人から見ると、繁忙期に休みがないことは当たり前のことであっても、異業種にいた人からみれば疑問に感じることが多かったと思います。

週労働時間の短縮などを含めた労働環境改善が将来に向けての人材確保や企業イメージの向上などプラスの効果が高いことを、両親に説明し納得させて、日曜祝日は休みにし、土曜も交代で休むことにしました。

モノラックのレール修理等が秋に集中し、冬から春に手が空くことがあつたため、年間を通し一定の仕事を確認することが課題となっていました。またモノラックの設置工事は原などの補助事業で他地域の業者が入っているため、入札が行われることが多く、また以前より件数も減り、競争もあり減少傾向にあります。しかしレールの整備、修理は毎年あり、農薬と併せ経営を安定させる柱になっています。

今年、創業時に建てた築約90年、建坪100坪もある元事務所兼自宅を取り壊し、新たに自宅を建築中とのこと。この機関紙が発行される頃には完成する予定です。社員全員が集まった写真は旧社屋を取り壊す前に撮った記念の一枚。みなさん穏やかな表情のなかにかつややかな面持ちが伝わってきます。

写真にある立派な瓦屋根は池田社長の母が生前、大枚をはたいて買ったもの。看板は時代を感じ、風格のある趣です。また新しい社屋前の写真はモノラックとして築いた職場の雰囲気も伝わってきます。

旧社屋前にて



旧社屋前にて



新社屋前にて社員とともに

社員が力を発揮して 会社を支えてくれることに感謝

池田社長に従業員について伺ったところ、顧客からは「良い人が多い」と言われることがよくあるそうです。まじめ

なタイプが多く、人を出し抜くような人がいないことが、そういう印象に繋がっているようです。また、池田社長自身は「レール工事も修理もやらない、社長業も十分できていないが、社員がそんな私をサポートしてくれる。お蔭で、今日までやってこれた。」と社員への感謝の気持ちを素直に話されました。現在19人の従業員を指揮し、安定した売上を達成しているのも、従業員一人一人が力を発揮しやすい環境を池田社長の明るい性格が作り上げているという一面もあるのでしょう。

ご家族は奥様と長男、次男、長女。長男は東京で会社を立ち上げ独立しています。次男の智樹氏は中学の

養蚕具の販売からスタートし旧社屋の看板では「農業用品のデパート」、現社屋は総合商社として「農業用品、工業用品、機器資材、計量器」を看板に掲げています。地域産業の変化に対応し、地域の需要に応え、商人としてサービスに徹する商売を続けた結果が現在の卸売中心の会社へと成長してきました。

農薬販売も、外資メーカーによる吸収・合併等により販売店の選択・集約の大きな変化が起きています。

あらゆる変化に対応し、後継者の成長と共に、今後ますますの活躍に期待します。



池田喜伴商店倉庫